

国指定史跡西条古墳群を紹介する説明板をＪＲ神野駅前及び加古川北公民館に新設しました！

主催	加古川市教育委員会 文化財調査研究センター
日時	令和7年3月14日（金）設置済
場所	ＪＲ神野駅 駅前広場 加古川北公民館 玄関脇
内容	加古川市では、国指定史跡である西条古墳群が指定から50年を経過したことを記念して、令和6年度に「西条古墳群国史跡指定50周年記念事業」を実施しました。今回の説明板は、記念事業の一環として制作したものです。 西条古墳群は、行者塚古墳・人塚古墳・尼塚古墳の3基が指定されており、山手2丁目の住宅街に点在しています。古墳好きの人々には良く知られた古墳ですが、外部から訪れる見学者からは場所が分かりにくいなどの声が寄せられていました。今回の説明板は、最寄り駅となる神野駅の駅前広場と、中継地となる加古川北公民館に設置し、地図を大きく掲載するなど工夫をしています。 また、3月21日には西条古墳群の中心的な古墳である行者塚古墳について、発掘調査の成果をわかりやすく紹介した冊子『行者塚古墳～墳丘・造り出しと埴輪・土製品の概要～』を刊行しました。文化財調査研究センターの窓口や、加古川総合文化センター、市内の図書館、公民館などで配布していますので、加古川の歴史や古墳時代について興味のある方は是非手に取ってみてください！ （ ☐ 初めて ・ 恒例 ・ ☒ 回目 ）
対象（参加者）	一般
定員	-
参加費	
申込先・方法	冊子は文化財調査研究センター、加古川総合文化センター、図書館、公民館などで入手可能
目的・背景 その他	西条古墳群国史跡指定50周年記念事業として制作
市ホームページ	掲載済み ・ 掲載予定（●月●日） ・ ☐ 掲載しない
広報かこがわ	●月号に掲載 ・ ●月号に掲載予定 ・ ☐ 掲載しない

説明板（JR神野駅前広場）



説明板（加古川北公民館）



行者塚古墳

～ 墳丘・造り出しと埴輪・土製品の概要 ～



令和7(2025)年
加古川市教育委員会

調査成果の概要

■ 増産
 炭所では斜井と平井掘の兼用が良好に続いていたため、両方部・兼井部と二区段構成で、連続約99mであることがわかりました。両区段の壁下部と盛り出し、2段目の下部までは地山を降り出して傾斜し、それより上は地山で造成していた。斜井は全て若石で覆われ、基岩と区画石には大ぶりの塊石が埋められている。

形状の特徴としては、兼井部掘に比べて兼井部がたいこと、両方部と兼井部を幾何学スロープがなっていることなどが特徴的。

● 送り出し

乗造り出しを除く各造り出しでは、網板や形状に加え、円形造輪列や形象透輪の配置、各場所での彫刻状況などが確認されています。

■ 周海

昭和52～53年の調査で蹴上形の鳥状であることがわかっていました。平成7～8年の調査では、後内郭の南側で黒曜を確証し、幅11m程度の黒曜と、その外側に外郭^{（外郭）}外郭^{（外郭）}溝が同心円状に並んでいたことが確認されました。



澳門新康園 三級樂透的結算



總發行所：東京



前方部西側 第2段平坦面堆積物と第3段砂質土質石

北東造り出し



初土庫は、造り出しの扉は中央に開き込めた車庫内に設けられていました。庫内の壁からは上
下2ヶ所出ました。初土庫を設置した後、暴徒を恐れ防具用に物入れたと考えられます。
掘り出し内から出土した貴重品は、漆黒磁瓶や黒曜石磁瓶が主です。そのほとんどが丁寧に磨き込んだ
まま良好に保存されていたため、これらの磁瓶が埋葬体首の上と再び包囲するように置かれていた
ことが明らかになりました。



服務站三區車站人力資源培訓



出土した家制遺物：西紀遺物

出仕した家司連様は5段で、屋根のつくりや入口の表現などは更に多種多様です。西列連様は、甲冑、槍、鞍（矢筒を差したもの）といった武具を模したものが多くあり、御拝者を導くための「御影」の模刻といえます。北東より入れば、西列り出しとは前の校舎を越えた空庭としてつくられていました。

